

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2016年10月28日

No. 4

**組合：組合員は最大限収入の確保や災害対応に奮闘している！
その労に報いるために満額で応えよ！**

**会社：収入確保に奮闘していただいている組合員に感謝している！
更なる収入拡大に向けて努力する！**

～2016年度 第2回年末手当交渉報告～

中央本部は、本日第2回年末手当交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

- ①上半期は、北海道や九州をはじめ、度重なる大型台風の上陸や大雨の影響を受けた。その結果、高速貨969本、専貨12本が運休した。収入においては対計画△19億円、対前年△2億円となっている。
- ②コンテナ輸送量は、エコ関連物資は関東地区発の自治体廃棄物・産業廃棄物の堅調な発送となった他、9月より熊本震災の瓦礫輸送開始などにより2200万円増となった。
- ③農産品・青果品では北海道及び九州の自然災害、東北地区の荷動き低調により対計画△6億円となった。

【関連事業部門】

- ①上半期の収入状況を踏まえ、10月期改定計画においては、鉄道事業の営業収支計画を達成するため、鉄道付帯に収支改善目標が課せられ、事業開発部門310億円（関連事業175億円、鉄道事業134億円）の改定となった。
- ②改定計画を達成するため、現在進行している開発等を着実に推進することで増収に取り組んでいくこととする。

【組合の主張】

- ①収入拡大は会社の経営責任である。輪転資材を確保しなければ、収入拡大にはならない。
- ②営業支店をはじめとする各職場の欠員対策は会社の責任である。
- ③組合員は必至で収入確保に尽力している。その労に報いる対応をすること。
- ④徹底したコスト削減を推し進めているが、そのしわ寄せを年末手当の削減に転嫁することは許さない。

【会社の回答】

- ①組合の指摘については真摯に受け止め、収入確保に向けて最大限努力する。
- ②組合員が収入確保に奮闘していることは理解している。組合の主張については真摯に受け止めて今後交渉を積み重ねていきたい。

中央本部は、「自然災害以外に輸送障害も多発している。特に車両故障や検査切れが増加傾向である。これは経費削減に傾斜する経営姿勢の結果である。会社経営陣は、これまでの延長線上の経営姿勢を改め、組合員の期待と将来に責任をもって年末手当の要求に満額で応えること」を主張し交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は、11月 1日（火）です。